

～鳴海から湖西市までを30回に分けて歩いた記録～ 5年竹組 及川 欽心

以前より明治川神社付近にあり。ばな松なみ木が気になっていました。母から、この道は旧東海道で松は江戸時代に植えられ、現在も旧東海道その各地に残っていると言っていました。大昔に植えられた松が今も残っている旧東海道に興味を持ちました。そこで、休日を利用して旧東海道に実際に歩いて銅像をみようとしました。

車がなかった時代の移動力を体感するため、車を使わず公共交通機関と徒歩で移動することになりました。(下の図は移動力例)

家 → 徒歩 → 宇頭駅 電車 → 目的の地付近の駅 徒歩 → 旧東海道スタート地点 →
旧東海道を歩いて富岡(約3.5km) → ゴール地点 徒歩 → 駅 電車 → 宇頭駅 徒歩 → 家

- 調査期間…去年9月～今年7月(土日祝、冬休み、春休みを利用)
調査はいい回数…愛知県名古屋市長区鳴海町から静岡県湖西市境宿ま
での旧東海道を30回に分けて調査。

- ・歩いたきょり…1回約5.5km(旧東海道約3.5km+馬尺までの移動など)
- ・事前じゃんび…ガーゲルマップで歩く道順を決めた。

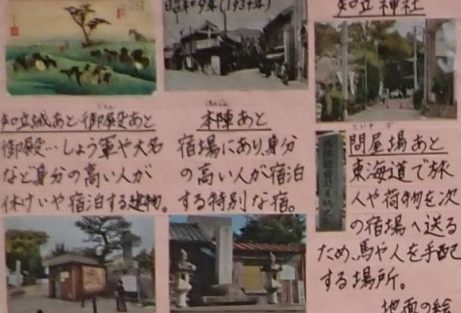
愛知県名古屋市長緑区鳴海町～静岡県湖西市境宿までの旧東海道を地図にまとめました。

- 旧東海道(歩いた道)
 旧東海道(歩いてない道)
 旧東海道を歩いて見つけたもの
- 国道一号线
 川・水路・海など
 一里塚
- 常夜灯

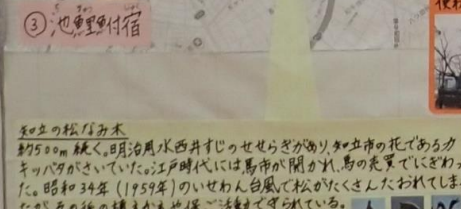
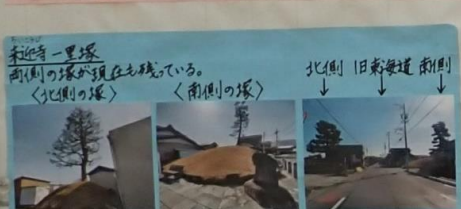


・小路…家と家にはさまれたせまい道。

①池田町宿(東海道五十三次の39番目の宿場町)
馬を売買する馬市の開かれたことで有名。
・尾立神社へお参りに来る人々に西尾街道と孝母(豊田)街道が分かれる交通の要所として栄えた。



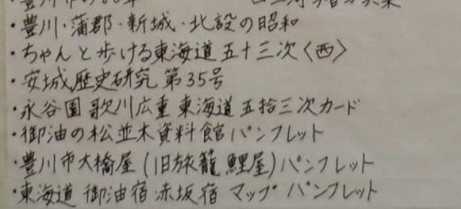
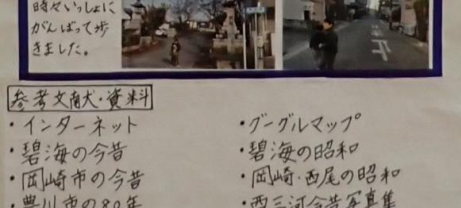
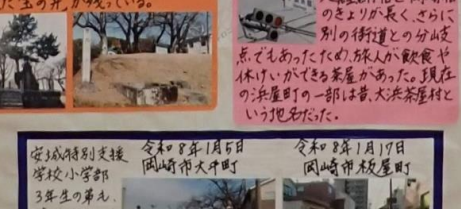
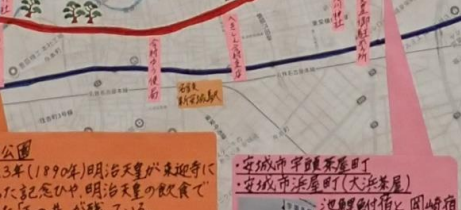
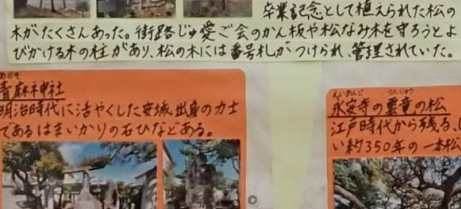
知立城と御殿と宿場と
・宿場には身分の高い人が宿泊し、下人は別荘に暮らすという特別な宿。
・知立市のマンボウ
・おじや様
・夜道の安全のために行道灯が置かれ、現在の街灯や道しるべのような役割。



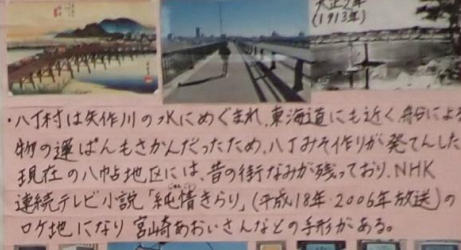
安城市の松並木
300市との市境〜岡崎市の市境までの旧東海道をいにとりこみ残っている。
(多岐市との市境〜今市町)



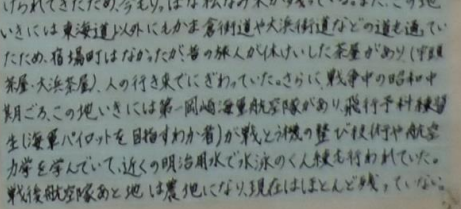
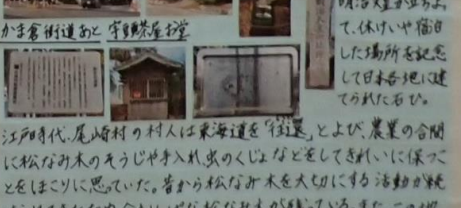
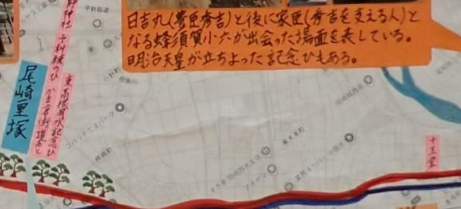
・1955年(昭和30年)ごろは松並木が、昭和34年のいせわん台風で壊れてしまった。旧東海道は土の道だった。
・今市町の駅前交差点
・くはきしん今市商店〜明治川神社
・尾崎町〜岡崎市との市境
・おじやのたちによる松並木お保ご活動
・里町小、安城北小、志量小の卒業記念として植えた松の木がたたくさんある。街路に愛ご会のかん板や松並木をさうとうとよびかける木の柱があり、松の木には番号がつけられ、管理されている。



④岡崎宿(東海道五十三次の38番目の宿場町)
・徳川家康が生れた岡崎城の城下町で東海道で3番目に大きな宿場町だった。城下町を通る東海道は「二十七曲り」とよばれる曲がり角の多い道となっていて、曲がれにくい工夫がされている。
・矢作橋は、東海道で一番長い橋として知られ、名所だった。



・ハナ村は矢作川の水にめぐまれ、東海道にも近く舟による物の運搬はもともとあった。ハナ村が栄えてきた。現在のハナ村地区には、昔の街並みが残っており、NHK連続テレビ小説「おしとんぼ」(平成18年2006年放送)のロケ地になり、宮崎あおいさんなどの手形がある。



- 参考文献・資料
- ・インターネット
 - ・碧海の今昔
 - ・岡崎市の今昔
 - ・豊川市の80年
 - ・豊川・蒲郡・新城・北設の昭和
 - ・ちゃんと歩ける東海道五十三次(西)
 - ・安城歴史研究 第35号
 - ・永谷園 羽川広重 東海道五十三次カード
 - ・御油の松並木資料館 パンフレット
 - ・豊川市大橋屋(旧旅館 鯉屋) パンフレット
 - ・東海道 御油宿 赤坂宿 マップ パンフレット
 - ・デューグマップ
 - ・碧海の昭和
 - ・岡崎・西尾の昭和
 - ・西三河今昔写真集

昭和20年(1945年)7月の岡崎空襲で、岡崎宿を中心に現在の佐馬通一帯にあった本陣馬本陣本陣たぐいのはたこ屋など市街地の多くの建物が消失した。現在岡崎宿歴史プロムナードが作られ、岡崎宿の歴史を伝えている。



大黒屋 約460年前から続く漢方店。岡崎空襲の被害をのりて残った数少ない店。
びん屋 約224年前から続くくかし店。岡崎空襲で消失したが建て直された。



岡崎インター交差点には目印になるほどの松林があり、ベンチや木筒の形をしたモニュメントがある。

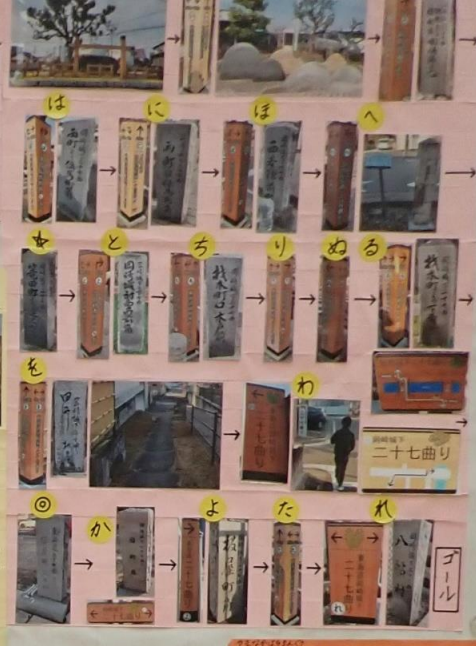


岡崎城 かの田公園
岡崎空襲の被害 からの復興記念ひがある。
岡崎市のマシホール
地面の痕

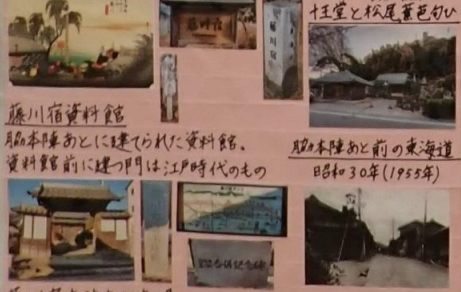


岡崎市岡町のなごり松
大平川神社
旧大平橋があった乙川
 乙川でとれる旧東海道のすぐ近くになごり松が1本と東海道の標石があった。昔は、ここから民衆東海道が分岐し、乙川には旧大平橋がかかっていた。大平川神社の方へわたることができたらしい。今は橋がなく、旧東海道も乙川でとれている。しかし乙川にそって進むと国道一号线に出られる道があり昔から地元の人々が国道一号线のじゅうに、をさけるためのぬけ道として使っていたそうです。すぐとなりの美合町出身の安は、昔から家族とこの道を通って変わった道だと思っていたそうです。今回の調査で、ここが旧東海道、昔は乙川に旧大平橋がかかっていたというところを知り、何で変な道なのか分かったと話してくれました。
 (名宿) 旧東海道 大平川神社 旧大平橋 乙川

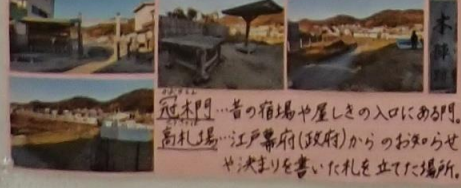
岡崎城下二十七曲り
 岡崎城を守るため、敵が一気にせめこまないよう、わざと道を何度も曲がらう工夫されている。道をいには道標が設置されているため、それを見つければ昔の道順をたどることができるといわれる。
 スタート



④ 岡崎宿
 大平川神社
 南側の家はほぼ当時と同じすがたで残っているが、北側の家は1922年(昭和3年)道路かくちょう工事のため取り壊された。北側家あと地には地蔵堂と常夜灯が建てられた。
 <南側> <北側>



⑤ 藤川宿(東海道五十三次の37番目の宿場町)
 ・むらさき色が名物で、昔から藤川周辺で作られていた作物。
 ・昔の東海道のふんいさが今もかなり残っている。



道路元標...道路の起点と終点を示し、きりを測る基準となる標識。大正時代に全国の市町村に設置され、昭和27年(1952年)は止された。



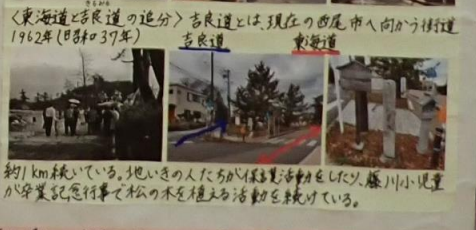
西條家あと(藤川小前)
 旧山中郷文蔵
 旧平岡家住宅(せに屋)
 旧野村家住宅(米屋)なまこかべ



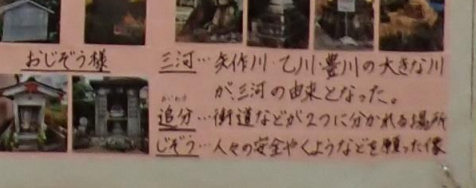
山中八幡宮と大平川宿
 1918年(大正7年)
 江戸時代に建てられた高さ約5mの大きな常夜灯がある。



⑤ 藤川宿
 藤川の松林
 1962年(昭和37年)

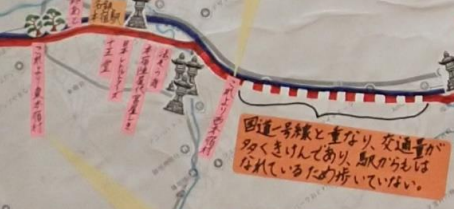
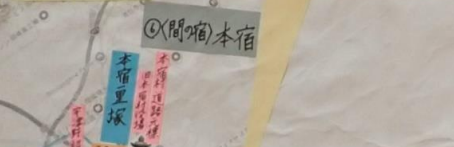


東海道と吉良道の区分 吉良道とは、現在の西尾市へ向かう街道
 1962年(昭和37年)



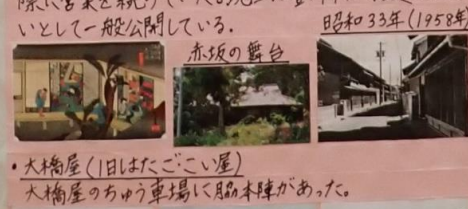
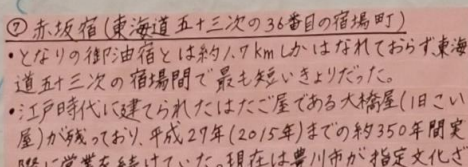
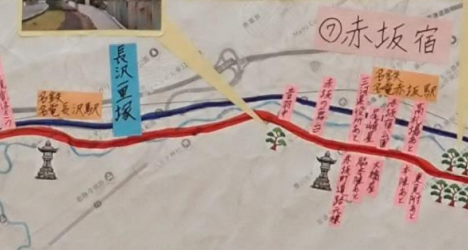
①間の宿本宿

・徳川宿と赤坂宿のきょりは長かったため、旅人が休けいする場所として利用された。間の宿は宿泊が禁止されていた。
・法曹や町で養われていた法曹や町だんごが宿泊。現在は道の駅藤川宿で再発見された宿がはんと売されている。
・石室本宿駅前と地蔵道の村松田 旧本宿村役場



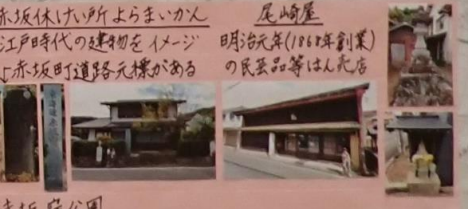
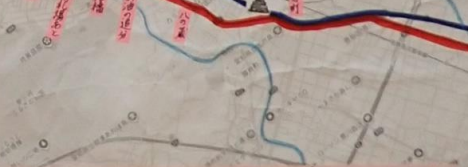
③御油宿(東海道五十三次の35番目の宿場町)

・となりの赤坂宿とは約1.7kmしかはなれておらず、東海道五十三次の宿場間で最も短いきょりだった。御油宿に泊まってもらうと、はげしい客の取り合いがあった。
・十王堂 御油札立柱は島あと 大名が御油宿に泊まることを知らせた札を立てた場所。



④御油宿

・御油の松なみ木に向かうと、母のスマホの画面がとつ然となくなりました。音声は流れていたのだからそう作しているうちに初期化されてしまい一部のデータが消えてしまった。
・まだ電車になれていなかったころ、名電赤坂駅で反対方面の改札に入ってしまった。別日には、宇頭駅でも同じことをしてしまった。どちらも無人駅のため、インターホンを鳴らすと遠くそう作で対応してくれた。
・宇頭駅で、きぶが自動改札機につまづきました。別日には、きぶは販売機がはんと停止になっていた。無人駅のため、インターホンを鳴らすと、遠くそう作で対応してくれた。
・前後駅で乗車中の電車で特急電車の通過を待っていたところ、線路異常による点検で20分遅延した。
・JR東田線の小坂井駅から利用する時、きぶの買い方や乗り方が分からずあてていると、近くにいる人が「初めて東田線乗る人はみんな分からないんだよ」と声をかけてくれ、親切に教えてくれた。
・予定では豊橋駅から電車まで三ノ宮まで行き、三ノ宮から豊橋バスに乗ってシンパニアテクノロジーまで行った。



⑩三川宿(東海道五十三次の33番目の宿場町)

江戸時代の東海道のおもかげが残る町。本陣・商家はだこの3つの江戸建ちくを見ることができる。
三川宿本陣資料館があり宿場町の歴史を学ぶことができる。時間の都合で見学できなかったが東海道を歩いていると外からはたごを見るこができた。



三川宿本陣と資料館 三田屋(はたご屋)

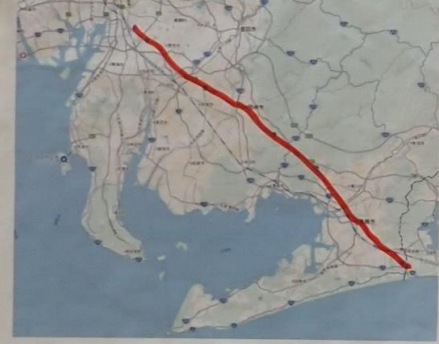


三川宿まちなか公園 瀬戸道と家と家の間の道 馬廻屋(商家)



調査した旧東海道の道ヨリ

(岡崎市長沢町の一部分約1.5kmは未歩行)



旧東海道のクマツギと

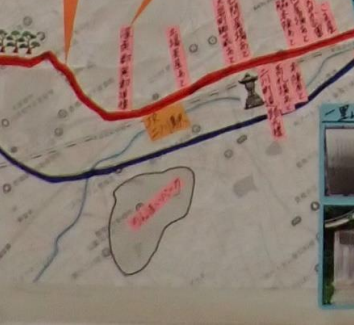


昭和33年(1958年) 平成時代
昭和30年代はリッパな松竹が茂った。平成19年(2007年)に松竹の伐採が行われ、現在は新しい松竹が植えられている。

東海道を歩く人



東海道を歩く人。この人はいくつかの場所で見つかった。



⑪白須賀宿(東海道五十三次の33番目の宿場町)

もともと潮見坂の下にあった白須賀宿が1707年(江戸時代)の宝永地震による津波の被害を受け、次の年潮見坂上の高台(現在のおんやど白須賀)へ移転した。そのため近くの境宿は白須賀宿の加宿となり宿場町の仕事を手伝うようになった。加宿とは宿場町だけでは人手が足りない時近くの村が宿場の仕事を手伝うこと。静岡岡崎・湖西市境宿で調査を終えた。調査日が日曜日で付近のバスは土日祝日運休のため利用できず、境宿道標からタクシーでJR新所原駅まで行き、帰った静岡県に入っていく場所



成林寺...境宿開設のころの石のり 白須賀宿の加宿 境宿道標の先 調査はここから

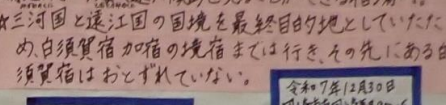


調査を終えて気づいたこと

- 昔と今では、生活の便利さが全くちがうことに気づきました。昔は知らず知らずのうちに高札場まで歩いて行き、道順は道しるべや一里塚などを目印に進み、休けいや宿泊には、決められた場所にある茶屋やはたご屋を利用していました。夜は、ちょうちん(人が持つ明かり)や街道の常夜灯などがあった。今のように明るくなったよ。今は車や電車、バスだけでなく、新かん線や飛行機で遠くまで短時間で移動できます。スマホなどを使ってインターネットですぐに情報を知ることができます。ナビで道もかんたんにつながります。夜は街灯で明るく、つづかれた時には道の駅やコンビニ、飲食店などに気軽に立ちよることができます。このように、昔とくらべて今はとても便利になっていることを実感しました。
- 各地に「茶屋」「一里山」「伝馬」など昔のなごりがある地名があり、そこから昔のことを知るヒントがみつかりました。また、マンホールには、その地いさの名産や花、歴史的なものなどがえがかれていて、マンホールからも、その地いさのことについていろいろ知ることができました。
- 岡崎市と豊橋市は、共通点が多いと思います。どちらも城下町としてきたため、曲がり角が多く、大きな川や路面電車がめぐる(岡崎市は1962年・昭和37年(は)止)。また、どちらも空しゅうで大きな被害を受け、昔のなごりがある地名も残っているからです。
- 旧東海道には、昔から残るもの(寺、神社、十王堂、建物、常夜灯、一里塚、松竹など)があり、昔の東海道の様子を今でも見ることができま。これらが今も残っているのは、地いさの人たちや自治体などが管理や保存活動を通じてきたからだと。今回の調査で知りました。昔も今も、東海道を大七かにする思いは変わっていないことに気づきました。
- 特に印象に残っているのは、有松です。電柱や電線がなく、昔の町なみが残り、大きな山車の祭りも行われていたからです。

⑫白須賀宿(東海道五十三次の33番目の宿場町)

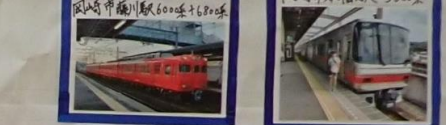
もともと潮見坂の下にあったが、1707年の宝永地震による津波で宿場の多くが流されてしまい、次の年潮見坂上の高台へ移転した。潮見坂から海(遠く瀬戸)を見ることができる宿場町。三河国と遠江国の国境を最終目的地としていたため、白須賀宿・加宿の境宿までは行き、その先にある白須賀宿はおとすれていない。



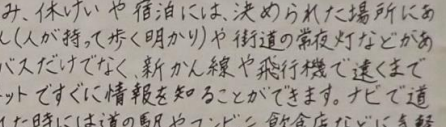
令和7年12月30日 岡崎市長沢町 東海道五十三次 33番目の宿場町



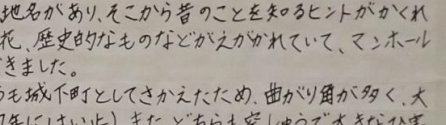
令和7年12月7日 岡崎市長沢町 東海道五十三次 33番目の宿場町



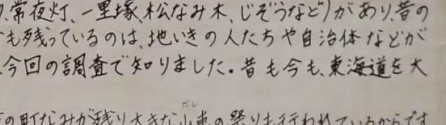
令和7年12月23日 岡崎市長沢町 東海道五十三次 33番目の宿場町



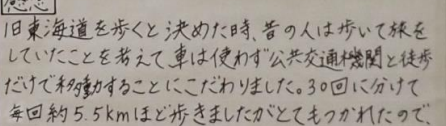
令和7年12月23日 岡崎市長沢町 東海道五十三次 33番目の宿場町



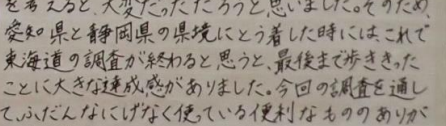
令和7年12月23日 岡崎市長沢町 東海道五十三次 33番目の宿場町



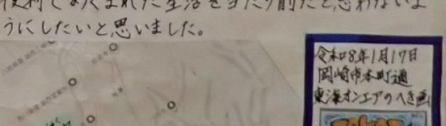
令和7年12月23日 岡崎市長沢町 東海道五十三次 33番目の宿場町



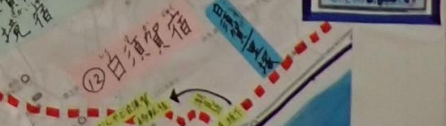
令和7年12月23日 岡崎市長沢町 東海道五十三次 33番目の宿場町



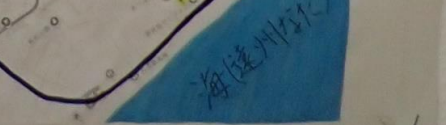
令和7年12月23日 岡崎市長沢町 東海道五十三次 33番目の宿場町



令和7年12月23日 岡崎市長沢町 東海道五十三次 33番目の宿場町



令和7年12月23日 岡崎市長沢町 東海道五十三次 33番目の宿場町



令和7年12月23日 岡崎市長沢町 東海道五十三次 33番目の宿場町